

『クリスチャンの部下として』

'23/05/07

聖書箇所:エペソ人への手紙 6 章 5-8 節(新約 p.380-)



パウロは、エペソ書 4 章以降で、クリスチャンが歩むべき生き方…、言わば、「信仰の実践」というテーマについて教えてくれています…。何故なら、本物の信仰には、必ず何らかの行ないが伴うからです！…イエス様によって救われたが故に…、「イエス様に従っていきなり！ イエス様のように歩んでいきなり！」…クリスチャンなら、誰でも、イエス様を愛し従おうとするが故に、そのように考えるはず。だからこそ、パウロは、エペソ 5:22 以降で、まず、夫婦関係について教える時にも…、また、エペソ 6:1 以降で、親子関係について教える時にも、「イエス様を模範にし…、それをそれぞれの立場において適用していきなさい！」と教えるわけです…。

命題:クリスチャンの部下は、どのように働いていくべき？

そういったことは、今日から学んでいく聖書箇所でも全く同じです…。今回と、来週は飛ばして、5/21 の礼拝で学んでいきたいことは、社会における人間関係の中での、信仰の実践です。なかでも、今日は、クリスチャンの部下という観点で、聖書のみことばを学んでいきたいと思えます。会社で勤めているクリスチャンは、その会社の中で…、また、自分の上司に対して…、そして、与えられた環境の中で、どのようにして自分の信仰を証しし、また、適用していくべきなのでしょう？どうぞ、聖書をお持ちでしたら、エペソ 6:5-8 をご覧ください。初めに、与えられたみことばを、お読みしたいと思えます。

- 5 奴隷たちよ。あなたがたは、キリストに従うように、恐れおののいて真心から地上の主人に従いなさい。
- 6 人のごきげんのような、うわべだけの仕方ではなく、キリストのしもべとして、心から神のみこころを行ない、
- 7 人にではなく、主に仕えるように、善意をもって仕えなさい。
- 8 良いことを行えば、奴隷であっても自由人であっても、それぞれその報いを主から受けることをあなたがたは知っています。

I・その 心構え について…(5 節)

まず、最初に学んでいきたい内容は、クリスチャンの部下である私たちの“心構え”です。ここで教えられていることは、私たちが、もう既に学んできた内容ですが、そういったことを、もう1度、と一緒に確認していきましょう…。

●当時の 奴隷 制度と、現代との関連性

今日の聖書箇所は、『奴隷たちよ…』という呼びかけで始まっています…。実は、この当時、ローマ帝国国内には、何と6000万人もの奴隷がいたと言われています。この手紙が書かれた頃のローマ帝国は、驚くべきことに…、「ローマ帝国は世界の頂点に立っている国だから、労働(＝働くこと)は、ローマ市民としての尊厳を卑しめることになる…」などと考えられていたのです。ですから、多くの仕事が、奴隷たちによって行なわれていて…、奴隷という身分でありながら、医者や教師の者たちも、たくさん居たのだそうです…。

そんなわけですから…、当然、奴隷の身分であっても、イエス様を信じて、救われたクリスチャンたちが大勢居たことは間違いありません…。でも、そこには、こんな問題と言うか…、ある種の疑問が出てきたのです…。「自分たちは皆、主にあつては、同じ家族の一員…、互いに兄弟姉妹(＝対等)であるはずなのに…、社会的には主人と奴隷といったように…、使う側と使われる側…、一体、私たちは、どのように、お互いと接していけば良いのだろうか？」というような疑問です。だから、パウロは、ここで奴隷としての在り方

について…、また、主人としての在り方に関して、主のみこころを教えようとしてくれているわけなのです…。

しかし、現代にあつては、この当時のような、主人と奴隷といった関係は存在しません…。でも、だからと言って、今日の聖書箇所が、現代の私たちと全く無関係…、意味が無いというわけではありません。…と言いますのは、あまり好ましい表現ではないかも知れませんが…、使う側と使われる側…、雇う側と雇われる側…という関係が、今も、私たちの周りには存在するからです…。ですから、どうぞ、今日のみことばに対しても関心を持ってくださって…、ご自分が適用できる教えを探しつつ…、今日のメッセージを聞いてくださいますようお願いいたします。

●『従いなさい』という言葉の 意味 ？

前にも少し話したことなのですが…、ここ 5 節で、『従いなさい』と訳されてある言葉(ὑπακούω)は、妻に対して言われている、「従いなさい」という言葉とは違って…、少し前に学んだ、子どもに対して、「従いなさい」と言われている言葉と同じで…、そこには選択の余地がないと言うか、もう少し厳しい感じの従順というのが要求されています。「相手の言うことに、しっかりと耳を傾けて、忠実に、そのことを守り行ないなさい！」というようなニュアンスが、ここにはあるのです…。

皆さん、覚えてくださっています？ 夫婦の場合…、妻が夫に従うということに関して、みことばは、「自発的に、自分を下に置いて、夫を立ててやりなさい…」と教えてくれていました。しかし、社会関係にあつては、もう少し厳しく教えるのです、「あなたは、主人(＝自分の雇用主)に従いなさい！」って…。

●クリスチャンのあるべき 姿 ？

そうして…、これまでそうであったように、パウロは、ここでも、クリスチャンの当然あるべき姿について、念を押してくれています。それが、エペソ 6:5 の、『あなたがたは、キリストに従うように、恐れおののいて真心から…』という部分です。

この部分から、みことばが間接的に教えてくれていることは、①まず第1に、クリスチャンはキリストに従っている…、少なくとも、従おうとしているという点です。…こういった点に関して、私たちは、もう何度も、同じようなことについて学んできました。…ですから、ここで改めて強調する必要もないと思いますが、私たちクリスチャンにとつての最高のご主人様は、天の神様であり、イエス様です！それは、私たちクリスチャンたちが皆、このイエス様によって救われ、このイエス様によって新しく造り変えられたからです！

だから、ヨハネ伝 3 章の終わりのみことばは、本物の信仰について、何と教えてくれていました？…ヨハネ 3:36、『御子を信じる者は永遠のいのちを持つが、御子に聞き従わない者は、いのちを見ることなく、神の怒りがその上にとどまる。』⇒良いのです？御子…、つまり、イエス・キリストを信じる者は永遠のいのちを持つけれども、その逆について、このみことばはどう教えてくれています？…『御子に聞き従わない者は…』とある通り、口では「私はイエス様を信じます！」と言っているけれども、そのイエス様に聞き従おうとしない者は、本当には救われていないのです。…だって、その人の上には神の怒りが留まっているから…。本当に、イエス様を信じて救われた者は、その救い主であられるイエス様に聞き従おうとするのです！…そうでしょ？皆さん！

②2つ目に、クリスチャンは、キリストに恐れおののいて従っている、ということを今日のみことばは教えてくれています。…ここで、『恐れおののいて…』とありますが、この表現は、原語では、「恐れる」(φόβος)というギリシヤ語と「震える」(τρόμος)というギリシヤ語とが続いて用いられて、説明されています。どちら

も、非常な恐怖と言うか、恐れを表わすような単語です。…本当に、真の神様を信じているクリスチャンは、その神様を恐れます。もしも…、「私は天地万物すべてを創造されて、すべてを裁かれる真唯一の神様を信じてはいますが、神様は愛なる御方だから、私は神様のことを少しも恐れてなんていません！」なんていうクリスチャンが居たら…、その方の信じている神様と聖書が教えている神様とは違います…。

だって、詩篇 96:4 のみことばは、こども教えるからです！『まことに【主】は大いなる方、大いに賛美されるべき方。すべての神々にまさって恐れられる方だ。』って…。これと同じようなことが、I 歴代誌 16 章やイザヤ 59 章、あるいは、詩篇の何ヶ所かでも教えられてあります…。新約聖書のルカ 12:5 で、イエス様御自身も、『恐れなければならない方を、あなたがたに教えてあげましょう。殺したあとで、ゲヘナに投げ込む権威を持っておられる方を恐れなさい。そうです。あなたがたに言います。この方を恐れなさい。』と教えてくださっています。…もちろん、私たちは、真の神様のことを、むやみやたらに恐れるのではなく、この御方が、どんな小さな罪でも見逃されないで、すべてのことや人を正しく裁かれる御方だからです…。

③そうして、3つ目には、クリスチャンはキリストに真心から従っている、ということが記されてあります。ここに記されてある『真心から…』という部分を直訳してみると、「あなた方の心を惜しまないように…」とも訳せます。…皆さん、ご存知でしょ？…例えば、イエス様は、マルコ 12:30 で、『心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』と教えてくださったじゃないですか！クリスチャンである皆さんは、心を尽くして、思いを尽くして、それこそ全精力を尽くして…、神であるイエス様を愛そうとしておられるはずですよ…。そうじゃありません？

●『地上の主人』とは？

神様のみこころは、クリスチャンである皆さんが神様に従っていらっしゃるのと同じように…、今度は、目の前の、『地上の主人』に対しても従っていかれることなのです…。ひょっとしたら、私たちは神様を信じ…、神様を第一に従おうとするがあまり…、必要以上に、その他のすべてのものを排除しようとしてしまっているのかも知れません…。

でも、ここで言われている、『地上の主人』という言葉は、直訳すると、「肉による主人」となります。これは、明らかに、私たちの霊による主人であられる神様との対比です。それは、つまり、奴隷に対する主人…、今で言うところの、職場の上司であるとか…、あるいは、会社の社長、国が与えた権威…、つまりは、政治家や警察官の皆さんのことを含んでいると言い得ると思います…。

このように、神様のみこころとは、私や皆さんが、職場の上司に従っていかれることなのです！あるいは、奥さんがご自分の主人に従っていくことでもあります…。また、ご主人が奥さんを通して…、奥さんのために、ご自分を捧げていくことでもあります！あるいはまた…、神様を愛するが故に、自分の親を尊敬し…、親に従っていくことでもあるのです…。

もしも、万が一、神様に従うことと上司に従うことが矛盾するなら、当然、神様に従うべきです！もし、皆さんの家族が言うことと…、神様の命令とが明らかに相反するなら…、神様を第一にすべきです！でも…、もし、そうでないなら、私たちは神様を愛するが故に、家族にも仕え…、職場にあつては、その上司にも仕え…、そして、日本国民としては、その国の権威に対しても、従順であるべきなのです…。だから、ローマ 13:1-3 のみことばは、こんなことを教えてくださいよね？『1 人はみな、上に立つ権威に従うべきです。神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられたものです。2 したがって、権威に逆らっている人は、神の定めにとむいているのです。とむいた人は自分の身にさばきを招きます。3 支配者を恐ろしいと思うのは、良い行いをするときではなく、悪を行うときです。権威を恐れたくないと思うなら、善を行いなさい。そうすれば、支配者からほめられます。』とある通りです。

II・その 具体的な勧め(6-7 節)

その次に学んでいきたいのは、その具体的な勧めです。このみことばは、私たちが、より实际的に、社会にあつても、良い証しをできるように、“具体的な”なポイントで教えてくれています…。もう1度、エペソ 6:6-7 の部分をお読みいたします…。『6 人のごきげんのような、うわべだけの仕方ではなく、キリストのしもべとして、心から神のみこころを行い、7 人ではなく、主に仕えるように、善意をもって仕えなさい。』

① 表面的 な見せかけではなく、心から仕えなさい！

みことばは警告します、『人のごきげんのような、うわべだけの仕方』であってはいけません、って…。つまり、表面的な見せかけではなくて…、心から仕えていきなさい、と言うのです。会社の上司が見ている時だけ、さも、一生懸命にやっているように見せかけよう…、そのような間違った動機、裏表のある行動ではなく…、正しい動機でもって、心の底から仕えていきなさい、ということですよ…。

イエス様も、「山上の説教」と呼ばれるメッセージで、そういったことを厳しく警告なさいました。ちょっと、皆さん。前の画面に出てくる、マタイ 6:1-2 をご覧ください。『1 人に見せるために人前で善行をしないように気をつけなさい。そうでないと、天におられるあなたがたの父から、報いが受けられません。2 だから、施しをするときには、人にほめられたくて会堂や通りで施しをする偽善者たちのように、自分の前でラッパを吹いてはいけません。まことに、あなたがたに告げます。彼らはすでに自分の報いを受け取っているのです。』

⇒ここで、イエス様は、「どんな善行(=良い行ない)であっても神様は喜んでくださる…」とはおっしゃいませんでした…。その動機が問題である、と教えてくださったのです！特に、この当時は、教師であるはずの律法学者やパリサイ人たちが、人からの称賛を受けたくて…、自分自身が得をするために…、自分の栄誉のために、人に対して施しをしたり…、人に見せるために祈ったり、断食をしていたのです。だから、イエス様は、当時の律法学者やパリサイ人たちのことを、「偽善者」と言って、厳しく非難されたでしょ？

でも、皆さん…。私たちにも、同じような誘惑がありません？確かに、目の前に上司が居たらサボることもできません…。しかし、私たち人間とは弱者で…、誰からも見られていないと、ついつい、甘えが出てきてしまいます…。だから、あのダビデ王などは、詩篇 16:8 などで、『私はいつも、私の前に【主】を置いた。…』というように告白したのです…。つまり、いつも…、神様の目というものを意識して、常に、聖い神様が私の一挙手一投足をご覧になっておられるという…、神様の臨在を意識したのです。

エペソ 6:6 にあるように…、もしも、私たちが、『キリストのしもべとして、心から神のみこころを』行なっていくのなら…、決して、上っ面だけで上司に仕えたり…、見せかけだけで、謙遜に振る舞ったりということは、そうそうできないはずです。私たちの弱さや問題点は、そういった本質を変えようとしなくて…、表面的な部分だけや体裁だけを取り繕って済ませようとするところにあるのではないのでしょうか？

② 上司 ではなく、主に仕えるが故に…

それと、もう1つの具体的な勧め…、それは、本当は、目の前にいる上司に仕えるのではなく…、主に仕えるが故に…、いろんな人と接していきなさいということです。今日のみことばは教えます、『6 …キリストのしもべとして、心から神のみこころを行い、7 人ではなく、主に仕えるように、善意をもって仕えなさい。』って…。

もう、私たち何度も学んできましたように、私たちの本当の主人…、究極の“あるじ”は、真の神であるイエス様です。そうでしょ？だから、1ヨハネ 4:21 以降のみことばは、こんな風に教えてくれています。『21

神を愛する者は、兄弟をも愛すべきです。私たちはこの命令をキリストから受けています。 1 イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。生んでくださった方を愛する者はだれでも、その方によって生まれた者をも愛します。 2 私たちが神を愛してその命令を守るなら、そのことによって、私たちが神の子どもたちを愛していることがわかります。』とあるのです…。クリスチャンである私たちが喜んで、神様に仕えていくなら…。その同じ思いをもって、クリスチャンの兄弟にも…。そして、職場の上司にも仕えていきなさいと、みことばは教えます…。それが、神のみこころであり、神様が私や皆さんに願っておられることなのです！

皆さんも、もうお気づきのように…。神様は、私たちが愛すべき対象に条件を付けておられません。そうですね？クリスチャンである兄弟姉妹に対しても…。また、皆さんのご主人や奥さんに対しても…。当然、今日の個所の、職場の上司に対しても同様です…。それはそのはずで、神様の愛…つまり…。アガペーの愛には、何の制約も…。条件もないからです！

天の神様は、そのように、まず、私たちが愛してくださったのです！だから、イエス様は、すべての…。罪を犯した人間のために、自分から進んで、あの忌まわしい十字架に磔になってくださったのです！

「皆さんのご主人や奥さんが皆さんに良くしてくれるなら、だったら、その人たちを愛してやりなさい…」とは、みことばは教えません…。それと同じように、もしも、皆さんの会社が…。あるいは、職場の上司が、万一、皆さんに対して良くしてくれなかったとしても…。私たちは、主に対して仕えるように…。会社にあっても、また、職場の上司に対しても…。当然、同僚や後輩に対しても、神様の愛を実践していくべきではないでしょうか？

例えば、イエス様が、「良きサマリヤ人の例え」という話で、教えてくださったように…。私たちが実践していくべき神様の愛には、一切の条件を設けるべきではありません…。だから、イエス様は、マタイ 5:43-48で、こう教えてくださいました。『43 『自分の隣人を愛し、自分の敵を憎め』と言われたのを、あなたがたは聞いています。 44 しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。 45 それでこそ、天におられるあなたがたの父の子どもになれるのです。天の父は、悪い人にも良い人にも太陽を上らせ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせてくださるからです。 46 自分を愛してくれる者を愛したからといって、何の報いが受けられるでしょう。取税人でも、同じことをしてはいませんか。 47 また、自分の兄弟にだけあいさつしたからといって、どれだけまさったことをしたのでしょうか。 48 だから、あなたがたは、天の父が完全なように、完全でありなさい。』⇒このように、天の神様は、私や皆さんに、「神であるわたしを見習って、わたしと同じようなことを…。わたしと同じような歩みをしていきなさい！」ということをおっしゃっておられるではありません？

●権威に対して、従順であった人々…

創世記の時代、アブラハムのひ孫に当たるヨセフという人物がいました…。彼は、特別な、神様の選びの中にありました…。それ故に、ヨセフは、幼い頃から兄弟たちに疎まれ…。とうとう、エジプト行きの商人に売られてしまいました…。その後のヨセフには、災難に次ぐ災難が彼を襲いました…。ヨセフを買い取った主人（＝ポティファル）の妻は、何と、ヨセフのことを誘惑しようしますが、ヨセフがそれを拒んだため、あらぬ疑いをかけて…。そのため、ヨセフは投獄されてしまいます…。しかし、それでも、ヨセフは腐ったりせずに、グチをこぼしたり、罪を犯したりしませんでした…。ねえ、皆さん！

まさに、ヨセフは、ローマ書 12 章のみことばを実践したのではないのでしょうか？ローマ 12:17-21には、こう記されてあります。『17 だれに対してでも、悪に悪を報いることをせず、すべての人が良いと思うことを図りなさい。 18 あなたがたは、自分に限る限り、すべての人と平和を保ちなさい。 19 愛する人たち。自

分で復讐してはいけません。神の怒りに任せなさい。それは、こう書いてあるからです。『復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする、と主は言われる。』 20 もしあなたの敵が飢えたなら、彼に食べさせなさい。渇いたなら、飲ませなさい。そうすることによって、あなたは彼の頭に燃える炭火を積むことになるのです。 21 悪に負けてはいけません。かえって、善をもって悪に打ち勝ちなさい。』⇒もちろん、これは新約聖書のみことばで…。ヨセフは、ここのみことばを知りませんでした…。しかし、彼は、すべてを支配しておられる全能者なる神様を信じ、その神様を愛するが故に、神様に喜ばれることを選択し続けていったのです。

これまた、皆さんもご存知のように、イエス様の祖先となったダビデも、サウル王の妬みによって、何度もいのちを狙われたことがありました…（Ⅰサムエル 18-19 章）。そのため…。ダビデは逃亡生活を余儀なくされました…。その逃亡中、『エン・ゲディの荒野』（Ⅰサムエル記 24 章）に寄った時、サウル王は、イスラエル全体から、3000 人の精鋭を選りすぐって、ダビデを殺めようとしてきました…。そこで、一体、何が起こったのでしょうか？何と、ダビデが隠れていたほら穴に、サウル王が用をたしにやってきたのです！その時、ダビデの部下は、ダビデに対して、こう言ったのです。「神様がチャンスを与えてくださった！これは、神様が、サウル王を殺しても良いと言われている証拠です！」って…。しかし、ダビデは、サウル王の上着のすそを、こっそりと切り取っただけで、その場を去りました…。その後、ダビデは自分の部下にこう言うのです。Ⅰサムエル記 24:6、『私が、主に逆らって、【主】に油そそがれた方、私の主君に対して、そのようなことをして、手を下すなど、【主】の前に絶対にできないことだ。彼は【主】に油そそがれた方だから。』…何と、ダビデは、「しもべである自分が、神によってたてられた主君に手を出すべきではない！」と言うのです…。ダビデは、自分自身では復讐せずに…。神様にお任せしたのです。ダビデは、「人が自分に悪を行なうから、自分も悪でもって報いよう！」とはしなかったのです！この時のダビデにとっての…。最優先事項は、自分が神様のみにこころに従っていくことであつたのではないのでしょうか？

これと同じような思いで歩んだ人物が、このエペソ書を書いたパウロ自身です。彼もまた…。迫害者の魔の手に悩まされる人物でした…。自分の宣教を邪魔する者…。多くのクリスチャンを迫害し、そのいのちさえも奪おうとする者がいる中で、パウロは、自分で復讐しようとはせずに…。神様の前に正しくあろうとしたのです。その当時、ローマの皇帝は、あの悪名高いネロという人物でした…。結果…。パウロは殉教（＝信仰の故にいのちを奪われた）したのです…。しかし、パウロは、それであっても良かったのです！だって、パウロは、コリント 1:20-21で、こう言っているじゃないですか。『20 それは私の切なる祈りと願いにかかっています。すなわち、どんな場合にも恥じることなく、いつものように今も大胆に語って、生きるにも死ぬにも私の身によって、キリストがあがめられることです。 21 私にとっては、生きることはキリスト、死ぬことも益です。』って…。

こういったことを見ていきますと…。確かに、ごく一部の信仰者は、神様のみにこころに従い通した、という現実を見ることが出来ます…。それと同時に、私たちは、こんな風に思いませんか？「あの人にできても、やっぱり、私には、こんなこと無理だ…。到底、できっこない…。」って…。でも、そういうことが、まず、私たちには必要なのです！だって…。私たちは皆、そのことに気付かないと、自分の力でもって、何もかもやろうとするじゃないですか！…そうして、失敗して、くじけるのです…。

Ⅲ・その 祝福 (8 節)

今日のみことばが最後に教えてくれていることは、私たちが神に従っていけるように…。と、神様が与えてくださった励まし…、その“祝福”です。エペソ 6:8の部分を読んでみますと…。『良いことを行えば、奴隷であっても自由人であっても、それぞれその報いを主から受けることをあなたがたは知っています。』とあります。

ここで教えられてあることは、「神様は、必ず正しいことで報いてくださる！」ということです。この地上であっても…、私たちが良いことを行なっていく時に、必ずや、主はそれに報いてくださいます。だから、Ⅱコリント 5:10 のみことばは、こう教えるわけです。『なぜなら、私たちはみな、キリストのさばきの座に現れて、善であれ悪であれ、各自その肉体にあってした行為に応じて報いを受けることになるからです。』とあって、神様が悪いことだけでなく、良いことさえも覚えておられ…、神様が、確実に、それぞれに報いられることが教えられています。

それと、もう1か所、紹介させてください。Ⅰコリント 3 章のみことばもまた、私たちクリスチャンに対する報いについて、教えてくれています。そこで教えられてありますのは、私たちクリスチャンたちは皆、イエス・キリストという土台の上に、家を建てるようなものだ、ということを教えてくれています。でも、そこで大事になってくるのは、その家を、どのような材質で建てるか？だと言うのです。それらは、『金、銀、宝石、木、草、わら…』であって、神の裁きという火（≒炎）の中をくぐって、果たして、その建物が残るかどうか、ということによって、私たちの働きの真価が明らかにされる！という話です。…このように、天の神様は、私たちの働きと言うか、私たちが救われてから、天に召されるまでの間に、した行為について、すべてを御存知で…、それに対する正当な報い（＝ごほうび）を与えてくださるのです。

<励ましの言葉>

ですから…、もしも、皆さんが、今現在の上司や会社から正しく評価されていなくても…、あるいは、受けるべき正当な報いを受け取っておられなくても…、心配しないでください！…神様はすべてを御存知です。天の神様は、あなたが正しい動機で、しかも、正しく行なったのであれば、必ず、報いてくださいます！神様が、はっきりと、そのことを約束してくださっているのです！

みことばは今、皆さんにそういったことを思い起こさせて…、益々、皆さんが主により頼んで、主のみことばに沿って歩んで行かれることを促してくれています…。私たちは、職場にあって…、また、家庭にあって…、あるいは、日本国民として…、従順な者でしょうか？神であられるイエス様は、皆さんに、そういったことを期待していらっしゃるのです…。どうぞ、今一度、新たな決心をもって、主の良き証し人として生きていきましょう。最後に、お祈りをもって、このメッセージを終わらせていただきます。